

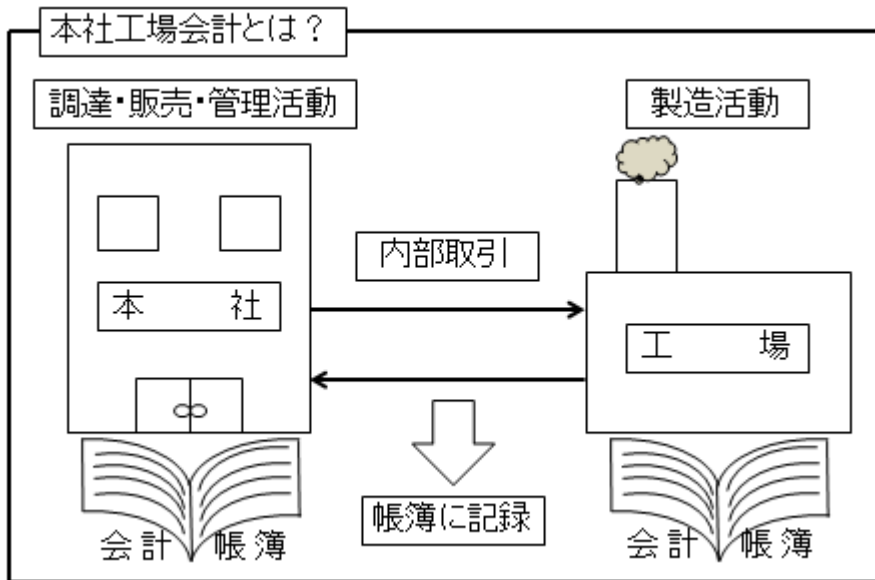
第153回 日商簿記検定試験 2級 一工業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第4問 本社工場会計

ポイント 各取引が本社と工場でそれぞれ記帳されるかを判断できるか否か。

まず本社工場会計について整理すると下記の通りとなる。



上記にもとづき、本社と工場それぞれで会計帳簿を設け、取引を記録計算していく。その目的としては、**本社と工場それぞれの業績評価**が挙げられる。

(1) 材料購入に伴う取引

① 工場側

代金は本社が支払うため、本社に対する債務が増加する。

(借)	材	料	900,000	(貸)	本	社	900,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---------

② 本社側

本社は材料購入に伴い、代金の支払いを行うため、仕入先に対する債務の支払いと同時に工場側に対する債権が発生する。

(借)	工	場	900,000	(貸)	買	掛	金	900,000
-----	---	---	---------	-----	---	---	---	---------

(2) 工場従業員に対する給与支給の取引

① 工場側

賃金給料の発生とともに本社側に対する債務が発生する。

(借)	賃	金	・	給	料	2,000,000	(貸)	本	社	2,000,000
-----	---	---	---	---	---	-----------	-----	---	---	-----------

② 本社側

工場従業員への給与の支払いはずべて本社が行うため、工場側に対する債権が発生する。

(借)	工	場	2,000,000	(貸)	現	金	2,000,000
-----	---	---	-----------	-----	---	---	-----------

(3) 工場清掃作業料金の支払い

① 工場側

工場清掃作業料金は外部業者に委託しており、どの製品にも共通してかかる原価であるため、間接経費として製造間接費の発生を認識する。同時に、本社に対する債務が発生する。

(借)	製 造 間 接 費	120,000	(貸)	本 社	120,000
-----	-----------	---------	-----	-----	---------

② 本社側

本社が支払を行うため、当座預金勘定の減額をするとともに工場に対する債権が発生する。

(借)	工 場	120,000	(貸)	当 座 預 金	120,000
-----	-----	---------	-----	---------	---------

(4) 減価償却費の計上

① 工場側

減価償却費は間接経費となるため、製造間接費の発生とともに本社勘定を増額させる。

(借)	製 造 間 接 費	300,000	(貸)	本 社	300,000
-----	-----------	---------	-----	-----	---------

② 本社側

工場側に機械減価償却累計額が設けられていないが、これは、工場の固定資産の管理を本社が行っているためである。したがって、工場勘定の増加および減価償却累計額の計上を行う。

(借)	工 場	300,000	(貸)	機 械 減 価 償 却 累 計 額	300,000
-----	-----	---------	-----	-------------------	---------

(5) 製品販売時の仕訳

① 工場側

工場側に製品勘定が設けられているため、本社が製品を販売した時に工場が本社へ一旦販売したものとす。したがって、製品勘定の減額と本社に対する債権が発生する。

(借)	本 社	8,000,000	(貸)	製 品	8,000,000
-----	-----	-----------	-----	-----	-----------

② 本社側

売上原価の計上と同時に工場に対する債務が発生する。

(借)	売 上 原 価	8,000,000	(貸)	工 場	8,000,000
-----	---------	-----------	-----	-----	-----------

第5問 組別総合原価計算(総合原価計算表&損益計算書の作成)

ポイント 売上原価の算定を正しく行えるか否か。

1. 加工費の按分

機械稼働時間を基準に各製品に按分する。

- (1) 加工費配賦率 $1,312,800円 \div 27,350時間(当月機械稼働時間計) = 48円/時$
- (2) A製品配賦額 $(1) \times 16,250時間(当月機械稼働時間) = 780,000円$
- (3) B製品配賦額 $(1) \times 11,100時間(当月機械稼働時間) = 532,800円$

2. A製品売上原価の算定

A製品については当月に仕掛品在庫を有しないため、投入原価が完成品原価となる。また、売上原価算定において製品在庫が存在するが、製品払出単価の算定は先入先出法であり、月初製品はすべて販売したものと仮定し、完成品原価を按分計算していくことになる。

- (1) 当月完成品原価 $1,404,000円(直接材料費) + 780,000円(加工費) = 2,184,000円$
- (2) 売上原価の算定

BOX図(生産データを図式化したもの)により算定していく。

製 品			
	月初製品 5,000本	当月販売量 54,000本	
220,000円			2,278,000円
	当月完成量 52,000本	月末製品 3,000本	126,000円
2,184,000円			
<u>2,404,000円</u>			<u>2,404,000円</u>

- ① 月末製品原価 $(1) \div 52,000本(当月完成量) \times 3,000本(月末製品数量) = 126,000円$
- ② 売上原価 $2,404,000円 - ① = 2,278,000円$

3. B製品売上原価の算定

B製品については月末仕掛品在庫を有するため、当月投入原価を按分計算していく。

(1) 直接材料費の按分

仕掛品(直接材料費)			
	月初仕掛品 0本	当月完成品 29,000本	
	当月投入量 31,000本	月末仕掛品 2,000本	70,000円
1,085,000円			
<u>1,085,000円</u>			<u>1,085,000円</u>

- ① 月末仕掛品原価 $1,085,000円(当月製造費用) \div 31,000本(当月投入量) \times 2,000本(月末仕掛品数量) = 70,000円$
- ② 完成品原価 $1,085,000円(当月製造費用) - ① = 1,015,000円$

(2) 加工費の按分

仕掛品(加工費)			
	月初仕掛品 0本	当月完成品	
	当月加工量	29,000本	522,000円
532,800円	29,600本	月末仕掛品 *600本	10,800円
<u>532,800円</u>	※加工進捗度考慮済み		<u>532,800円</u>

- ① 月末仕掛品原価 $532,800円(当月製造費用) \div 29,600本(当月加工量) \times 600本(月末仕掛品数量) = 10,800円$
 ② 完成品原価 $532,800円(当月製造費用) - ① = 522,000円$

(3) 売上原価の算定

- ① 当月完成品原価 $1,015,000円(直接材料費) + 522,000円(加工費) = 1,537,000円$
 ② 売上原価の算定

製 品			
	月初製品 2,000本	当月販売量	
112,000円	当月完成量	28,000本	1,490,000円
1,537,000円	29,000本	月末製品 3,000本	159,000円
<u>1,649,000円</u>			<u>1,649,000円</u>

- (a) 月末製品原価 $① \div 29,000本(当月完成量) \times 3,000本(月末製品数量) = 159,000円$
 (b) 売上原価 $1,649,000円 - (a) = 1,490,000円$

4. 売上高の算定

$120円/本(販売単価) \times 54,000本(A製品販売量) + 140円/本(販売単価) \times 28,000本(B製品販売量) = 10,400,000円$

5. 売上総利益の算定

- (1) 売上原価計 $2,278,000円(A製品) + 1,490,000円(B製品) = 3,768,000円$
 (2) 売上総利益 $4 - (1) = 6,632,000円$